科目名	漢文学Ⅰ		担当教員	内田　健太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JCC101
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学習者の実態を踏まえて漢文訓読技法を教授する。				
到達目標及びテーマ	授業実践を見据えて､国語科教科書漢文教材（漢文訓読法）の要点を説明することができる。				
授業の概要	文学・歴史・思想の三分野にわたる漢文作品を検討素材とし、漢文の基本事項を学ぶことで、漢文訓読技法を柱とした教材研究能力並びに教材開発能力の確たる基礎づくりを目指す。漢文の根本となる漢字・漢語の成り立ちやその漢字・漢語による漢文の基本構造、その漢文を日本語古文として編成する際の訓点・訓読文の用法と注意点、漢文読解の鍵となる「助字」ならびに使役・受身・反語等の句法の形式とその判別など、漢文訓読技法の基本事項について実践的な力を養成するとともに、古典としての漢文の正確にして十分な内容理解を図る。				

授業計画	
第1回	授業ガイダンス （本講の位置づけおよび問題の所在とその解決方法について授業案内を行う）
第2回	情報処理技術としての漢文訓読（漢文訓読の背景について、日本語と漢字・漢語との関係から探る）
第3回	資料読解技術としての漢文訓読 (1)（漢文の基本構造の特質と、それに対応した訓点の用法について学ぶ）
第4回	資料読解技術としての漢文訓読(2)（助詞助動詞を中心とした日本語文語文法と訓読文との関わりについて学ぶ）
第5回	句法の基本型の解説と練習(1)漢文を読解する上でポイントとなる「実字」と「助字」との区分について学ぶ。
第6回	句法の基本型の解説と練習(2)「助字」のうち、漢文訓読技法において特徴的ないわゆる「再読文字」について理解を深める。
第7回	句法の基本型の解説と練習(3) 打消・否定・禁止、そして並列の「助字」とその用法について、日本語文語文法との関わりの中で理解を深める。
第8回	句法の基本型の解説と練習(4) 二重否定・部分否定・強否定の「助字」とそれぞれの用法について理解を深める。
第9回	句法の基本型の解説と練習(5) 故事を読み、反語と疑問、さらに詠嘆の「助字」とその用法について理解を深める。
第10回	句法の基本型の解説と練習(6)故事成語の通釈を通して、指導上の留意点について考える。
第11回	句法の基本型の解説と練習(7)論説文を読み、抑揚・累加・比況の「助字」とその用法について理解を深め、文体上の特色を考える。
第12回	句法の基本型の解説と練習(8)日本漢文を取り上げ、その歴史的背景と資料的特質について考え、国語と日本漢文との関わりについて理解を広げる。
第13回	句法の基本型の解説と練習(9)日本漢文を読み、使役・受身・仮定の「助字」と用法について理解を深める。
第14回	句法の基本型の解説と練習（10) 日本漢文の通釈を通して、指導上の留意点について考える。
第15回	授業まとめ　漢文句法の総復習

事前学修	2時間	講義プリント・教材プリントの予習。 授業ノートの作成。
事後学修	2時間	講義プリント・教材プリントの復習。 教材プリントの提出用書き下し文の作成。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出物に朱を入れて返却する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	40%	伝統的な言語文化としての訓読の仕方に関する問題を主に出題する。
レポート	30%	単元ごとに教材プリントの書き下し文の作成を課し、理解度に応じて評価する。

上記以外の試験・平常点評価	30%	予習の取り組み、発言の頻度や内容・態度や意欲など授業への参加度を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
作成したプリントによる	なし	なし	なし	なし
参考資料	＊授業時は漢和辞典必携。 『漢辞海』（三省堂）『漢字源』（学習研究社）『新字源』（KADOKAWA）など。 新たに入手する場合は、『漢辞海』を推奨します。 ＊『中学校学習指導要領解説　国語編』『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省）			

科目名	漢文学Ⅱ		担当教員	内田　健太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JCC402
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学習者の実態を踏まえて漢文教材（詩文分野）を検討する。				
到達目標及びテーマ	授業実践を見据えて､漢文教材（詩文分野）の教材研究を行うことができる。				
授業の概要	主として「漢詩」と総称される韻文の作品群を取り上げ、漢詩文の教材研究能力並びに教材開発能力の向上を目指す。時代ごとの代表的な漢詩文作品について、その前提となる時代的特色を押さえ、その表現様式と表現内容を吟味し、唐宋を中心とする「漢詩」の歴史的展開を学び、漢文教育の場で必要となる「近体詩」のルールを習得する。その後の「漢詩」の展開をも概観し、理解を広げたい。				

授業計画	
第1回	授業ガイダンス （本講の位置づけおよび問題の所在とその解決方法について授業案内を行う）
第2回	漢詩の源流にあるもの-（１）［詩経①］
第3回	詩経の世界-［詩経②］（漢詩の源流にある詩経の世界を知ることを目標とする）
第4回	漢詩の源流にあるもの-（２）［楚辞①］
第5回	楚辞の世界-［楚辞②］（漢詩の源流にある楚辞の世界を知ることを目標とする）
第6回	漢代の文学①（漢代の文学作品を読む）
第7回	漢代の文学②（漢代の文学を生み出した環境を知ることを目標とする）
第8回	魏晋六朝の文学①（魏晋六朝の文学作品を読む）
第9回	魏晋六朝の文学②（魏晋六朝の文学を生み出した環境を知ることを目標とする）
第10回	漢詩の基本解説と読解 （唐宋詩1）［盛唐詩①］（唐代詩文の歴史的背景と、「近体詩」にみえる表現上の特色について、盛唐の詩人の作品を読解して学ぶ。「近体詩」のルールを習得することを目標とする）
第11回	漢詩の基本解説と読解 （唐宋詩2）［盛唐詩②］
第12回	漢詩の基本解説と読解 （唐宋詩3）［盛唐詩③］
第13回	漢詩の基本解説と読解 （唐宋詩3）［中唐詩］（「近体詩」が成立した盛唐期以後の歴史的変遷について、中唐期の作品を読解することで、その表現にみえる時代的特色を学ぶ）
第14回	漢詩の基本解説と読解 （唐宋詩4）［晩唐詩］（「近体詩」が成立した盛唐期以後の歴史的変遷について、晩唐期の作品を読解することで、その表現にみえる時代的特色を学ぶ）
第15回	漢詩の基本解説と読解-唐詩の後を継ぐものたち- （漢詩の展開を概観し、漢詩へのさらなる理解を広げることを目標とする）

事前学修	2時間	講義プリント・教材プリントの予習。 授業ノートの作成。
事後学修	2時間	講義プリント・教材プリントの復習。 教材プリントの提出用書き下し文の作成。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出物に朱を入れて返却する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	単元ごとに教材プリントの書き下し文の作成を課し、理解度に応じて評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業時に確認テストを行い、漢詩文の理解力・鑑賞

		力を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	予習の取り組み、発言の頻度や内容・態度や意欲など授業への参加度を評価する。

補足事項	※3年生・4年生（この後期に小学校・中学校教育実習を行う学生）で履修を考えている学生は、事前に内田までメールで相談してください。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
作成したプリントによる	なし	なし	なし	なし

参考資料	＊授業時は漢和辞典必携。 『漢辞海』（三省堂）『漢字源』（学習研究社）『新字源』（KADOKAWA）など、詩韻がわかるもの。 ＊『中学校学習指導要領解説　国語編』『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省） ＊八木章好『中国古典文学二十講』（白帝社）

科目名	漢文学Ⅲ		担当教員	内田　健太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3JCC403
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学習者の実態を踏まえて漢文教材（思想分野）を検討する。				
到達目標及びテーマ	授業実践を見据えて､漢文教材（思想分野）の教材研究を行うことができる。				
授業の概要	漢文教育において『論語』をはじめとする思想分野の作品は重要な位置を占める。本講では、その人間観・教育観に注目して、中国思想のものの見方、考え方が際立つ諸篇を取り上げ、主として近世の注釈によって丁寧に読んでゆく。近世の思想資源をも勘案し、漢文思想世界における人間観・教育観への理解を深めたい。				

授業計画	
第1回	授業ガイダンス （本講の位置づけおよび問題の所在とその解決方法について授業案内を行う）
第2回	中国思想をひもとく前に①（近世宋代の文章を読む）
第3回	中国思想をひもとく前に②（近世明代の文章を読む）
第4回	中国思想をひもとく前に③（近世士人の人間観・教育観を吟味し、漢文世界の思考様式について理解を深めることを目標とする）
第5回	『論語集注』（１）（朱熹『論語集注』を丁寧に読み、その思考様式について理解を深めることを目標とする）
第6回	『論語集注』（２）
第7回	『論語集注』（３）
第8回	『論語集注』（４）
第9回	『孟子集注』（１）（朱熹『孟子集注』を丁寧に読み、その思考様式について理解を深めることを目標とする）
第10回	『孟子集注』（２）
第11回	『孟子集注』（３）
第12回	『孟子集注』（４）
第13回	荀子の孟子批判（荀子のいわゆる性悪説について吟味し、漢文世界の人間観を掘り下げることを目標とする）
第14回	「学記」（１）（『礼記』「学記」にみえる〈教育〉に関する諸篇を選読し、漢文世界の教育観を掘り下げることを目標とする）
第15回	「学記」（２）

事前学修	2時間	講義プリント・教材プリントの予習。 授業ノートの作成。
事後学修	2時間	講義プリント・教材プリントの復習。 レポート（書き下し文）の作成。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出物に朱を入れて返却する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	単元ごとに教材プリントの書き下し文の作成を課し、理解度に応じて評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業時に確認テストを行い、漢文思想世界のものの見方、感じ方、考え方の理解を問う。
上記以外の試験・平常点評価	30%	予習の取り組み、発言の頻度や内容・態度や意欲など授業への参加度を評価する。

補足事項	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
作成したプリントによる	なし	なし	なし	なし
参考資料	＊授業時は漢和辞典必携。 『漢辞海』（三省堂）『漢字源』（学習研究社）『新字源』（KADOKAWA）など。 ＊『中学校学習指導要領解説　国語編』『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省）			

科目名	漢文学Ⅳ		担当教員	内田　健太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED4JCC504
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学習者の実態を踏まえて漢文教材（史伝分野）を検討する。				
到達目標及びテーマ	授業実践を見据えて､漢文教材（史伝分野）の教材研究を行うことができる。				
授業の概要	古典としての漢文における史伝分野の文章を読む。史伝の内容を構成や展開に即し正確に読むことを通して、何が描かれているかという歴史事象に対する知見を深めるとともに、どう描かれているかという史伝の作法を学ぶことで、人間観・社会観・運命観など様々な時代の人々のものの見方、感じ方、考え方について理解を深めたい。また、日本漢文を読み解くことにより、日本の文化と伝統について理解を広げることも視野に入れたい。				

授業計画	
第1回	授業ガイダンス　ー司馬遷と「史記の世界」ー　（本講の位置づけおよび問題の所在とその解決方法について授業案内を行う）
第2回	『十八史略』「春秋戦国」（１）
第3回	『十八史略』「春秋戦国」（２）
第4回	『十八史略』「春秋戦国」（３）
第5回	『十八史略』（まとめ）（『史記』を読むのに先立ち、江戸期より現在に至るまで漢文教材として親しまれた『十八史略』を読み、歴史記述の初歩を学ぶ）
第6回	『史記』「伯夷列伝」（１）＜序を読む＞
第7回	『史記』「伯夷列伝」（２）＜伝を読む＞
第8回	『史記』「伯夷列伝」（３）＜賛を読む＞
第9回	『史記』「伯夷列伝」（まとめ）（『史記』列伝第一の「伯夷列伝」を読むことを通して、中国の史書にみられるものの見方、感じ方、考え方について理解を深めることを目標とする）
第10回	『史記』「刺客列伝」(1)
第11回	『史記』「刺客列伝」(2)
第12回	『史記』「列伝」（まとめ）　（『史記』「列伝」を読むことを通して、多様な人間群像について考えることを目標とする）
第13回	『日本外史』（１）
第14回	『日本外史』（２）
第15回	『日本外史』（まとめ）　（『日本外史』を読む。『史記』を範として編まれた『日本外史』の読解を通して、「日本文学」としての漢文学について理解を広げることを目標とする）

事前学修	2時間	講義プリント・教材プリントの予習。 授業ノートの作成。
事後学修	2時間	講義プリント・教材プリントの復習。 教材プリントの要約文の作成。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出物に朱を入れて返却する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	単元ごとに教材プリントの要約文の作成を課し、理解度に応じて評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業時に確認テストを行い、史伝の理解力・鑑賞力

		を問う。
上記以外の試験・平常点評価	30%	予習の取り組み、発言の頻度や内容・態度や意欲など授業への参加度を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
作成したプリントによる	なし	なし	なし	なし
参考資料	＊授業時は漢和辞典必携。 『漢辞海』（三省堂）『漢字源』（学習研究社）『新字源』（KADOKAWA）など、歴史地図があるもの。 ＊『中学校学習指導要領解説　国語編』『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省）			